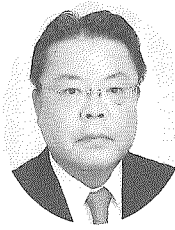




発行所
北海道北見市北斗町
北見北斗高校同窓会
事務局 ☎24-3195
印刷：(株)須田製版



ご挨拶

同窓会会長
小原 誠

平成29年度の「とどの実会」会報に際しまして一言ご挨拶申し上げます。

去る10月7日(土)、8日(日)に甲府第一高校との強行遠足交流が行われ、今年は北見北斗が甲府へ行ってきました。生徒は越智淳平君(2年)、仲野聡一郎君(2年)、鈴木彩香さん(3年)、木幡夢さん(2年)、引率は私と渡部校長、小野泰章教諭、小堀健介教諭、それに途中から渡辺顧問も合流致しました。今年で91回目の強行遠足を迎えた甲府第一高校とは、平成4年から強行遠足つながりで生徒の相互派遣を行っています。甲府第一高校の強行遠足は男子が105km、山梨県甲府から長野県小諸まで走りま

計に時間がかかりました。女子2名も完走しました。この交流は順位や記録を競うことが目的ではなく、文化、歴史、食べ物などが異なる地域の高校同士が強行遠足という共通の行事を通して交流し、お互いに刺激を受け合って視野を広げることが目的です。

甲府第一高校の強行遠足を通して、堀井昭校長をはじめとする教員の皆様、金丸信吾同窓会会長をはじめとする同窓会の皆様、大沢正聖PTA会長をはじめとするPTAの皆様に、大会運営、警備の面などで本当にお世話になりました。来年は甲府第二高校の生徒が北見北斗に派遣されることになっています。交流の輪がさらに広がることを期待しています。



北斗初のこと

校長
渡部 道博

ワーを感じます。8月5日は地元、北見の「とどの実会懇親会」です。今年は井上さんをはじめとする68期の皆さんが当番幹事で大変御苦労様でした。来賓としては、東京とこの実 呉山さん、札幌とこの実 佐々木会長、関西とこの実 奥村副会長、旭川とこの実 中野会長のご臨席をいただき、550名の参加をみました。その後8月25日には旭川とこの実会が中野均会長のもと15名の参加で行われました。

10月1日には第85回強行遠足が行われ、早朝よりお手伝い頂いた御父兄の皆様、各々の地域に係る皆様には、大変ありがとうございました。また68期の皆様においては、置戸・秋田間の特設給水所を設置して頂きありがとうございました。次年度は甲府第一高校の参加となるので、関係の方々にはよろしく願います。さて母校北見北斗高等学校に話を戻しますと今年には文部科学省からSSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定されました。スーパーサイエンスハイスクールとは将来国際的な科学技術関係人材を育成するための先進的な理数教育を実施する高等学校ということ、ちなみに今年の1月に台湾へサイエンス研修として生徒3名を派遣しています。これには、とどの実会の助成金が使われています。また、外務省の「かけはしプロジェクト」ではカナダのカルガリー市の「ジョン・デュー・フエンベイカール高校」の生徒が十数名来校し、本校からは20名の生徒がカルガリー市に派遣されました。今後、地域にも国際社会にもさらに貢献できる北斗生を目指してまいります。

末筆ながら、改めて誇りある我が母校北見北斗高校の益々のご発展と同窓会皆様のご健勝とご活躍を念じ御挨拶と致します。

省からSSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定されました。スーパーサイエンスハイスクールとは将来国際的な科学技術関係人材を育成するための先進的な理数教育を実施する高等学校ということ、ちなみに今年の1月に台湾へサイエンス研修として生徒3名を派遣しています。これには、とどの実会の助成金が使われています。また、外務省の「かけはしプロジェクト」ではカナダのカルガリー市の「ジョン・デュー・フエンベイカール高校」の生徒が十数名来校し、本校からは20名の生徒がカルガリー市に派遣されました。今後、地域にも国際社会にもさらに貢献できる北斗生を目指してまいります。

来ることだと思えます。

今年1月には、とどの実会の援助を受けて3名の生徒と教員1名を サイエンス研修として台湾に派遣しました。

2月には、外務省のKAKEH ASEEプロジェクトでカナダカルガリーの高校生が15名、教員が2名来校し、交流を行ない、本校生徒宅にホームステイしました。

そして3月に、来校したカナダの高校に北斗から20名の生徒と2名の教員を派遣して、逆にホームステイしました。

そして2つめの北斗初です。

今年度、北斗高校は、管内初のスーパーサイエンスハイスクールとなりました。文科省の研究指定の中でも、予算も中味も桁違いのものでした。

本校の研究では、オホーツク圏のローカルと世界のグローバルをかけたあわせのグローバルがキーワードになっています。

北見を中心としたオホーツク圏の理解と活性化を考えるローカルの視点と、海外との研究交流の中から生まれる国際的な視点の両方をもつ人材の育成を図ります。

その結果、国際的に活躍する人材となったとしても、生まれ育ったオホーツク圏のことをいつも

平成30年度の当番幹事は
69期生です
よろしくお願いします

北見北斗高校公式ホームページ
<http://www.kitamihokuto.hokkaido-c.ed.jp>
写真などをびんだんに用い、北見北斗高校の最新情報をお知らせしています。ぜひご覧ください。

とどの実会役員

●北見本部	
顧問	渡部 道博 (母校現校長)
顧問	渡辺 和勇 (前会長 26期生)
会長	小原 誠 (52期)
副会長	五十嵐 力 (35期)
副会長	黒部 哲哉 (40期)
副会長	小泉 勝裕 (40期)
副会長	栗原 寛隆 (42期)
副会長	福地 博行 (44期)
副会長	阪田 裕 (46期)
副会長	戸田 龍一 (46期)
副会長	中村 雅俊 (54期)
副会長	中村 寿志 (58期)
副会長	永田 裕一 (59期)
監査	藤井 紀一 (35期)
監査	信田 直哉 (59期)
幹事	栗山 太郎 (56期)

※副会長の倉本 登 様(50期生)が平成29年10月にご逝去されました。

考え、いつか北見に戻ってきて北見のために貢献しようという気持ち、遠く離れたところからも北見に貢献しようという気持ちを持てたいと思っています。

去年から、北斗のオフィシャルコピーとして「みらいとコネクト北見北斗」をいろいろなところで使っています。

生徒たちを未来としっかりつなげる北見北斗、未来を保障する北見北斗であることをアピールしています。今年は、北斗グッズとして、クリアファイルとボールペンにそのオフィシャルコピーを印刷して作成しました。6月の東京とこの実会総会、7月の札幌とこの実会総会

会、8月の北見とこの実会ビールパーティーでセットで販売し、総売上が12万円を超えました。この売り上げは、今年度の台湾サイエンス研修の派遣補助に使わせていただきます。北斗グッズを買っていただいた同窓生の皆様には感謝申し上げます。

「とどの実会」の皆様には、今後現在の北斗高校に関心をもち、いただいた、現役生徒並びに教職員に対し、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、「とどの実会」の会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。



当番幹事を代表して

第68期代表幹事

井上 篤

強行遠足とならぶ北斗高校の歴史と伝統の象徴である「とどの実会」、本年度の当番幹事は、平成5年3月の卒業生である私たち68期が担当しました。

毎年、各代の先輩方が取り仕切り主催されてきた「とどの実」の懇親会とゴルフコンペについては、とにかく事前の準備と協賛集めが大変と、多くの先輩方から聞かされていましたので、

まずは偵察と思い、一昨年からより地元に残る同期10人程で集まり、懇親会の雰囲気を感じ、お手伝いの年であった昨年の会には、30人を越える仲間が集い、当日の準備と流れ、役割を共有すること、今年の8月5日に向けた幹事作業をスタートさせました。

高校の卒業後、千支もふた廻りし、それぞれに人生を生きてきた同級生が24年ぶりに再会できるということは嬉しい限りであり、「楽しく・助け合つて」を合言葉に、昨年の11月から10回程の話し合いと飲み会を重ね、思い出しに花を咲かせながらチームワークを築き、ゴルフと準備を進めました。

今回、当番幹事を担当させていただき最初に気付かされたことは、自分たち

が強行遠足や部活動遠征、高体連出場など充実した高校生活を送ることができていたのは諸先輩方からの協賛のおかげであったというところで、改めて同窓会への感謝の気持ちを抱きました。

「在校時の支援への恩返しをしよう」と懇親会運営の目標を同期で確認し、当日までの準備を手探りのなか進め、途中、作業が難航することもありましたが、何とか当日を迎えることができたのは、昨年、代表幹事の67期の先輩方の多くのご助言によるところが大きく、「とどの実会」の絆の強さを改めて実感できた次第です。

また、市内外を問わず各地で活躍されている先輩方から様々な形で数多くのご支援ご協賛をいただき、遠方で準備に参加できない同期の仲間達からは励みや応援のメッセージが届き、母校を愛する精神の素晴らしさを肌身で感じました。

8月5日の当日は、当番幹事として同期の仲間総勢60人余りと、次期幹事の69期からも20人程のお手伝いをいただきました。24年ぶりの再会を懐かしみつつ、ゴルフコンペから懇親会

終了までがあつたという間の楽しい1日でした。

天候にも恵まれ、蒸し暑さが残る絶好のビール日和に、懇親会は大変にぎやかに盛り上がり、盛会のなか無事に終えることができました。

このように有意義な経験を得ることができたのも、同窓会事務局をはじめ、諸先輩方からのご支援、卒業期ごとの当番幹事制のおかげであるものと心より感謝している次第です。

最後に、「とどの実会」にご協賛いただきました企業・団体・同窓生の皆さまに改めて深く感謝を申し上げますとともに、今後現役の学生の活動を支援していくために、当会がますます発展されますことを祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございます。



支部だより

札幌支部

札幌とどの実会会長

佐々木 亮子 (40期)

昭和39年7月1日に創立された札幌とどの実会、平成26年に50周年を迎え、歴代の役員及び会員の皆様の熱意と努力により地道に歴史を重ねてきました。

私は、第9代の会長に就任しました40期の佐々木亮子と申します。

本年初めて経験した総会及び懇親会は、顧問の林新治先生(第5代会長)並びに前会長の安藤英征先生(第8代会長)をはじめとする経験豊かな役員の皆様のご指導の下で前例に倣い運営しましたが、来年からは若干の変更を加えることにしました。

○これまで創立記念日の夜に実施していた総会及び懇親会を昼の開催に変更します。(平成30年7月1日(日)午後1時、札幌すみれホテル)

○札幌とどの実会報及びホームページに、北見北斗高校に関するアップツイートの情報掲載し、あわせて札幌における北見フエアのような北見に関するイベント等についても情報提供していきます。

情報発信するところに集まる性質がありますが、札幌とどの実会会長に就任したことがあちこちに伝わ

ると、思いがけない情報が届くことに気が付きました。例えば、北海道開拓の歴史を研究されている方から北見市文化財に指定されている「信善光寺の木像」に関する寄稿文を頂戴しました。

北見地区の屯田兵の入植者は九州・中国地方からが多かったこと、当時の信善光寺の住職吉田法静尼が、屯田兵の遺徳を顕彰するために名古屋の人形師に本像の制作を依頼し、本堂横の壇に人形を並べたこと、中央に位置しているのは三輪光儀陸軍中將であること(功績を讃えて北見市に三輪の町名がある)、法静尼の屯田兵人形づくりの話は、新田次郎が「野付牛の老尼」と題して雑誌「オール読物」に発表したこと等々の記述がありました。



資料を通じて幾多の苦難に耐え北見地区の礎となつた人たちに思いを巡らすことは実に感慨深く、先輩が後輩に北見北斗高校の歴史とスピリッツを伝えていく今

東京支部

東京とどの実会幹事長代理

吉見 じゅり

第六十七回「東京とどの実会の集い」は、六月二十四日、アルカディア市ヶ谷において、百二十余名の同窓生が集い、開催されました。

来賓には、昨年に引き続き、北見北斗高等学校校長、渡部道博様、とどの実会会長、小原誠様、更には、とどの実会前会長、渡辺和勇様にも御臨席いただき、また、札幌とどの実会会長、佐々木亮子様、関西とどの実会顧問、青木二郎様、東京もいわ会会長、今井正司様のご臨席も賜り、この場をお借りして御礼申し上げます。

今年の当番期は、四十九期五十九期の皆様でした。母校の記念品の販売にも尽力し、盛会に大きな力を発揮してくれました。幹事長不在の心許ない中、司会の四十九期伊東千鶴子さん、五十九期の渡邊範道さんのあつぱれな進行にも助けられて、無事に開催できましたことに感謝申し上げます。母校が輩出した人材のなせる業ですね。

この集いの開催と共に、東京散策というイベントも開催しております。二十年前までは母校の強行遠足に因んで、皇居一周マラソンが行われていたことが、現在では、毎年コースを変えて散策しています。今年も毎回来しみに参加される顔なじみと初参加の同窓生と、二十名近く、年齢差30年ほどのメンバーで愛宕神社をメインに開催されました。私も今から次回コースを楽しみにしている一人でもあります。

この他、東京とどの実会が誇れるものに、ホームページがあります。管理人である副会長広川正三氏(42期)の尽力によるものですが、母校について、卒業生についてなど、情報発信に努めております。こちらも活用機会が更に拡げられないだろうか、と個人的に思っております。同窓生の皆様からの情報も有り難く、ホームページにお気軽に「訪問いただき、情報提供願えれば」と思っております。よろしく願っています。

関西支部

関西とどの実会事務局長

工藤 和男 (44期)

今年は、関西とどの実会が発足してから三五年になり

ます。本会は二九八二年二月、一〇年ぶりのラグビー部の花

各部の活躍

陸上部

インターハイを 終えて

3年2組 大石 千馬

私は山形県で行われたインターハイに、やり投げで出場しました。

やり投げという競技は、800gの物体を遠くに投げただけというとても単純なものですが、その単純さゆえ、一つの動きの甘さが記録に直結する恐ろしい競技です。

今年はその恐ろしさに何度か心を折られました。自分の思うような投げが出来た試合は、今年は一度もありませんでした。

そんな中迎えたインターハイ本番、春から痛めていた肘・肩の痛みもある程度引き、それなりのコンディションで臨むことが出来ました。それでもやはりやり投げという競技（というか陸上競技、もつと言えばスポーツ全てですが）は恐ろしいもので、いくらコンディションが良くても練習が積めていないと結果は出ないものです。可もなく不可もなくといった結果で私のインターハイは幕を閉じました。

結局、自己ベストの記録が出ることもなく、思うように投げられたわけでもありませんでしたが、あの時にできる最善の努力はしたという風に思っています。

最後に、多くの人たちの支えや指導があつてここまでこれたということを強く実感

しました。インターハイという舞台を経験できる人は、決して多くはないと思うので、大会が終わつてもなお残る思い出を大事にしていきたいと思ひます。本当にありがとうございました。

インターハイを 終えて

3年3組 長澤 佑紀

今年のインターハイは山形県天童市で行われ、私は400mハードルという種目で出場しました。昨年も同種目で出場を決めており、二度目のインターハイとなりましたが、今年の全道大会は昨年よりも厳しい争いとなりました。そのため出場することへの幸せを昨年以上に感じる大会となりました。

昨年の岡山インターハイでは、全国という雰囲気圧倒されてしまい、自分らしい走りができなかったのが悔しかったので、「今年こそは」という気持ちで挑みました。山形は思っていたよりも涼しく、北海道人の私でも丁度いいと感じるくらいの暖かさでした。インターハイは暑さとの勝負でもあるので、とても恵まれたコンディションの中でのレースだったと思います。また、緊張しすぎていた昨年の私とは違い、今年の私は自分自身でもとても落ち着いていえるように感じました。ただただレースが楽しかったです。

1ドルの1台目から他の選手に置いていかれましたが、今年は6台目あたりまで、しっかりと勝負することができました。最後は完全にスタミナが切れ、粘り切ることができませんでした。それが、それも課題として明確になり、収穫の多いレースとなりました。

放送局

全国大会を終えて

3年4組 高橋 美波

私たち放送局は、6月13日から16日に函館市で行われた全道大会において、ラジオドラマ部門・テレビドラマ部門、共に準優勝を頂き、7月24日から27日に東京都で行われた全国大会に局員全員で参加することができました。今回、全道大会で準優勝を頂いた作品は、ラジオドラマ「青春戦線異常無シ」、テレビドラマ「人間教育」でした。また、ラジオドラマは全国大会において、予選を通過し準決勝へ進み「制作奨励」を頂くことが出来ました。これは脚本を担当した久間、協力してくれた演劇部の皆さん、そして局員たちの努力の結果だと思ひます。

今回、全国大会に参加し、各部門のレベルの高さに圧倒されました。アナウンスや朗読の上手さはもちろんのこと、番組制作においての技術やカメラワークなど、多くのことを学ぶことができ、局員たちにとって大きな刺激となりました。1・2年生には、全国大会で学んだことを今後の活動に活かし、新入部員と共に、再び全国大会の舞台を経験してほしいと思います。

頼りなく非力な局長である私を支えてくれ、全国大会へと連れていってくれた久間、後輩たち、樋口先生には本当に感謝しています。最後の最後に最高の思い出を作ることが出来ました。後輩たちにはこれからも切磋琢磨し合い、仲の良い部活動にしてほしいと思ひます。ありがとうございました。

「放送局」の作品

2年1組 佐藤 あみ

私達は先日、「NHK全国高校放送コンテスト全国大会」に出場してきました。全道大会の結果発表の日、スクリーンに並んだ「北見北斗」の文字を今でもはつきりと覚えています。嬉し涙つて本心にこぼれるものなのですね。

私は全国大会に出品した二部門のうち、創作テレビドラマ部門の「人間教育」という作品の脚本・監督を担当しました。ドラマを作るにあたって、私が一番大切だと考えている脚本。執筆中、局員と意見がぶつかり合うこと

もありましたが、そういう時は樋口先生の「放送の根本は相手に伝えること」という言葉を思い出して書き直しました。完成まで、約半年かかってしまいましたが、全国大会でも「脚本が良く出ている」との言葉を頂き、今後とも頑張ろうと思ひました。

勿論、決して私一人で作ったものではありません。局員皆でつくりあげたものだから、全国大会に出品することが出来たのだと思ひます。全国大会での結果は喜ばしいものとはなりませんでした。が、まだ私達二年生には来年があります。この経験を必ず活かし、有終の美を飾れるよう、局員一同努力していかうと思ひます。

最後に、エキストラ・場所提供など作品制作に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました！

ラジオドラマ

3年4組 久間彩由実

この作品が生まれたのは私がまだ高校1年生だった頃でした。2年の時をかけて姿形を大きく変え、このドラマは強くなつてくれました。全国大会に進むまでに強くなつたのは、多くの人の力があつたからです。NHK（なるべく早く帰ろう同盟）とその企画を阻止しようとする生徒会との戦いを描いたこのドラマには、多くのキャストが必要でした。力を貸してくれたのは演劇部。忙しい中、素晴らしい演技で作品に力をくれました。脚本を何度

2018年2月9日から開催される
平昌オリンピックに当校卒業生が
出場します。

カーリング

藤澤 五月 さん (85期)
平田 洸介 さん (86期)



進學狀況

平成二十九年三月卒業

千葉科学大学	千葉商科大学	神奈川大学	神奈川工科大学	青山学院大学	亜細亜大学	桜美林大学	北里大学	杏林大学	慶応義塾大学	工学院大学	国際基督教大学	国士舘大学	駒澤大学	芝浦工業大学	昭和女子大学 実践女子大学	上智大学	成城大学	専修大学	洗足学園音楽大学	創価大学	大東文化大学	中央大学	帝京大学	東海大学	東京女子大学	東京工科大学	東京都立大学	東京農業大学	東京理科大学	東邦大学	東洋大学	二松学舎大学	日本大学	法政大学	明治大学	明治学院大学	明治薬科大学	立教大学	立正大学	早稲田大学	山梨学院大学	南山大学	大谷大学	京都産業大学	京都女子大学	京都橘大学	同志社大学	同志社女子大学	立命館大学	龍谷大学	関西大学	関西外国語大学	関西学院大学	大阪通信大学					
2	1	1	2	2	3	3	1	1	1	1	1	1	1	8 (1)	1	1	2	3 (1)	3	1	1	4 (4)	1	3	10	1	1	2	2	2	2	2	1	1	7 (1)	7 (3)	1	6 (3)	1	1	2	2	3	3	1	5	1	3	1	2	2	1	3	2	1	1	2	1	2

教職員の動向

就職状況	
近畿大学	2
奈良大学	3
西南学院大学	1
〔定時制〕	
北見情報システム専門学校	1
札幌エニチア専門学校	1
〔全日制〕	
北海道職員	1
東京消防庁	1
〔定時制〕	
(株)知床リゾート	2
(株)富田通商	1
(有)カタヤマ	1
(有)ミルランド	1
田中 彦好(体育)	
谷崎 広道(数学)	
〔定時制〕	
森田 克己(国語)	
〔事務〕	
任期満了	
〔事務〕	
秀樹(事務主任)	
鋼路(江南高校)	
〔全日制〕	
赤羽 史人(数学)	
小野 泰章(体育)	
野幌高校から	
藤森 美佐子(特別支援)	
北見北中学校から	
小野 慎郎(情報)	
新採用	
滝田 隼(理科)	
期限付採用	
〔定時制〕	
宇田 啓子(国語)	
〔事務〕	
木村 光裕(事務長)	
十勝教育局から	
石川 裕和(事務主任)	
根室教育局から	

平成29年度
高野連・高体連・高文連・定体連

部局活動の成績

平成29年度
 〔高野連・高体連・高文連・定体連〕

〔全日制〕			○剣道部			〔女子〕			○ソフトテニス部			○放送局		
○野球部			支部			団体			支部			ラジオドキュメント部門		
夏季大会支部			準決勝			個人			創作ラジオドラマ部門			朗読部門		
○ラグビー部			支部			団体			創作ラジオドラマ部門			アナウンス部門		
全道			優勝			個人			準優勝			高橋		
○サッカー部			全道			団体			中山森谷			中大		
支部			優勝			個人			宮本仲野			創作ラジオドラマ部門		
全道			2回戦			団体			川崎定本			朗読部門		
○バスケットボール部			支部			個人			川崎定本			アナウンス部門		
男子			3位			団体			全道			中大		
女子			1回戦			個人			宮本仲野			創作ラジオドラマ部門		
全道			1回戦			団体			中山森谷			朗読部門		
男子			1回戦			個人			川崎定本			アナウンス部門		
○バレーボール部			支部			団体			全道			中大		
男子			ベスト8			個人			川崎定本			創作ラジオドラマ部門		
女子			ベスト8			団体			宮本仲野			朗読部門		
○陸上競技部			支部			個人			川崎定本			アナウンス部門		
男子			優勝			団体			全道			中大		
女子			優勝			個人			川崎定本			創作ラジオドラマ部門		
○弓道部			支部			団体			川崎定本			アナウンス部門		
男子			1回戦			個人			川崎定本			創作ラジオドラマ部門		
女子			優勝			団体			川崎定本			アナウンス部門		
○テニス部			支部			個人			川崎定本			創作ラジオドラマ部門		

編集後記

今年度から母校に導入されたSSH（スーパーサイエンスハイスクール）は全国で約200校、全道では10校実施されています。

世界情勢が激動する今を生き残る「グローバル」な活動と、オホーツクの地に根付く「ローカル」な高校を併せかねた「グローバル＋ローカル」をスローガンに、更なる高みを目指す「北見北斗」を模索する新しい試みが始まったのです。

この事業の動向に関心を持たれているかと思いますが、今後の活動にも期待していただくとともに、「とどの実の活動にも皆様のご理解とご協力をいただき、同窓会ともども母校の発展のご支援をお願いいたします。」

（赤羽）